

サーチライト With Pastor Jon 黙示録 第2章 パート4

このメッセージはアップルゲート クリスチャン フェローシップの、ジョン・コーソン牧師が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスチャン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録する必要を感じました。また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、現在目を患って治療中です。どうか、りょくさんの為にも、お祈りください。

「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」

ヘブル4:7

メッセージ by ジョン・コーソン牧師 アップルゲート クリスチャン フェローシップ

<http://joncourson.com/>

7590 Highway 238 Jacksonville, OR 97530

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by Rin

第一の死は、肉体の死。第二の死とは、永遠の死。

「もしあなたがたが最後まで耐え忍ぶなら…」主は言われます。

「第二の死によってそこなわれることはない。」(黙示録 2:11)

また、ペルガモにある教会の御使いに書き送れ。(黙示録 2:12)

このペルガモという名前も重要です。

“ペル”は「墮落させる」から来ていて、「反対・妨害」即ち「受け入れられないもの」ギリシャ語では「いかがわしい」

ペルガモの“ガモ”は「結婚」

つまり、『いかがわしい結婚』

しっかりメモして下さい。『いかがわしい結婚』

事実、ペルガモ教会の教会史はいかがわしい結婚だから。

書き送れ。『鋭い、両刃の剣を持つ方がこう言われる。

「わたしは、あなたの住んでいる所を知っている。そこにはサタンの王座がある。」

(黙示録 2:12 - 13)

ギリシャ神話を信じる人々は、ペルガモがゼウスの出生地だと信じていて、そこからコトが始まりました。

ペルガモの町の中央に、ゼウスを奉る高さ約 45m の巨大な祭壇があり、それは非常に大きな王座のようで、「ゼウスの王座」と呼ばれていました。

主はその事を、「あなたがたの住む所には、サタンの王座があることを知っている。」つまり、ここは敵に乗っ取られた地であるという事ははっきりとしており、「あなたがたが困難な所に住んでいることを知っている。」と言われました。

続けて、

「しかしあなたは、わたしの名を堅く保って、わたしの忠実な証人アンテパスがサタンの住むあなたがたのところで殺されたときでも、わたしに対する信仰を捨てなかった。」

(黙示録 2:13)

ある歴史学者は、アンテパスはその町のクリスチャンの歯科医で、激しい迫害にも怯むことがなかった。そこで大きな銅釜が用意され、彼はその中で焼き殺された。アンテパスはクリスチャンとしての信仰のゆえに、ペルガモ市内で銅釜の中で焼き殺されたと記録しています。

「あなたがたは困難の中にいる。」

「しかし、あなたには少しばかり非難すべきことがある。あなたのうちに、バラムの教えを奉じている人々がいる。バラムはバラクに教えて、イスラエルの人々の前に、つまずきの石を置き、偶像の神にささげた物を食べさせ、また不品行を行なわせた。」

(黙示録 2:14)

「あなたがたの中に、バラムの教えに影響を受けている者がいる。」

バラムの教えは、民数記 22 章にあります。

バラムは預言者でした。彼はバラクに招かれ、イスラエルを呪うように依頼されます。

バラクは、イスラエルがどんどん増え広がるのを見て、いつか自分の領土が侵略されるのではないかと恐れたのです。

バラムは、神から「行くな。」と言われたのに、結局ロバに乗って出かけて行きました。続きはご存知ですね。彼は出て行き、山の頂に立ってイスラエルを呪おうとしましたが、口から出るのは祝福する言葉のみ。何度やっても、口をついて出てくるのは呪いではなく祝福。

バラクは「私の敵を祝福した。」(民数記 24:10) と怒った。それに対してバラムは、「この神の民を呪うなんてできない。祝福しか出てこない。しかし、別の手がある。」

“バラムの教え”

「モアブの娘たちにイスラエルの青年たちを誘惑させよう。この娘たちの天幕にイスラエルの若者たちを招かせ、彼女たちの偶像を拝ませる。そうすればイスラエルは姦淫、偶像礼拝に心奪われて、彼ら自身の上に呪いを招くでしょう。」

バラクは「名案だ！」と言い、その通り実行しました。

果たしてイスラエルは、姦淫、偶像礼拝の罪に陥り、自ら自国に呪いを招いてしまったのです。

“バラムの教え” とは「混合」

姦淫について聖書では、肉体的関係のみならず、霊的なものも姦淫とします。

「偶像」は世的なものを混ぜ合わせる事。この世との結婚です。

“ペル” “ガモ” = 『いかがわしい結婚』 = 『世との混合』

神は混ぜ物を激しく嫌われます。

羊毛と亜麻糸とを混ぜて織った着物を着てはならない。(申命記 22:11)

牛とろばとを組みにして耕してはならない。(申命記 2:10)

ぶどう畑に二種類の種を蒔いてはならない。(申命記 2:9)

他にもたくさんありますが、つまるところ主は言われるのです。

「わたしは混ぜ物を忌み嫌う。」

この世のものとの婚姻がどういうことになるのか。

このペルガモ教会は AD312 年,313 年から 600 年の間を象徴しています。

AD312 年、スミルナ教会の時に話した十人のローマ皇帝の最後の一人が死に、その後権力争いが起こりました。誰がローマ帝国を支配するのか。やがて、派閥争いの市民戦争が勃発し、一人の若者が世を支配する権力を得ようと乗り出します。

記録によると、大きな戦いが始まろうとしていた時、彼は天に十字架を見、「このしるしによって勝利せよ。」という声を聞いたのです。

この若者はひざまずき、新生したクリスチャンになりました。

彼の名は『コンスタンティヌス』

そして AD313 年、ミラノ勅令を発令。その内容は、「今後一切、クリスチャンを迫害しない。」「私はクリスチャンによって権力を得た。今後は私が彼らの盾となる。」

これを機にキリスト教がローマ帝国の国教となり、事実、ほどなくして、帝国内で生まれた

子供は全員、キリスト教の洗礼を受けなければならないと義務付けられました。
また、コンスタンティヌスはすぐに硬貨を作らせましたが、各種硬貨の表側はクリスチャンのシンボル、裏側は全て異教のシンボルでした。

「結婚」！

コンスタンティヌスはクリスチャンとなり権力を得ましたが、帝国内には既に様々な種類の異教の宮があり、それぞれの祭司が、その伝統に従って務めをしていました。
そこで、コンスタンティヌスは、「あなたの気持ちも分かる。だから、折衷にしよう。」と言ったのです。

という事で、ローマ帝国には異教バビロンの祭司がいました。
このバビロンは、創世記から黙示録 17 章,18 章で最終的に消されるまで、全ての偽宗教の鍵となります。そのバビロンの集会場がそこにあったのです。
それは創世記 10 章で、ニムロデという力ある獵師、主に逆らった男の王国バベルから始まりました。(創世記 10:10)
全ての偽宗教の元、バビロン宗教は、創世記から始まり黙示録まで続くのです。
彼らは異教の習慣や教え、祭司の務めを続け、それをキリスト教と結合させました。
これに対して主は、「これはいかがわしい結婚であり、あなたがたがしてきた事をわたしは忌み嫌う。」と言われます。
イスラエルの青年たちに異教の習慣を持ち込ませ、呪いを招いた。
これがペルガモ教会がしてきた事で、神の叱責の原因です。

“バラムの教え”とは「混合」

これは教会と国家の結びつきを指しています。
教会が国家と結びつき、政治的な権力に利用されること。
権力を得るために互いに手を組み、異教の伝統的な習慣を「これをキリスト教のものにしよう。」と取り入れました。
その結果、教会は墮落の道を進むことになり、今もまだ回復していないことをこれから見ていきます。

「それと同じように、あなたのところにもニコライ派の教えを奉じている人々がいる。」
(黙示録 2:15)

教会と国家との結婚、結合を支持し、バビロンの習慣を取り入れるだけでなく、ニコライ派の教えをも奉じた。ニコライ派とは聖職者政治、聖職階級制度、霊的指導者、教皇。
人々は「全ての権威権力は自分にある。」「私は完璧だ。」と言い始めました。
主は「あなたがたはそれらを喜んで受け入れているが、どうなっているのか。」「あなたがた

はこのいかがわしい結婚を支持しているが、それはバビロンのやり方だ。」

「だから、悔い改めなさい。もしそうしないなら、わたしは、すぐにあなたのところに行き、わたしの口の剣をもって彼らと戦おう。」(黙示録 2:16)

“彼ら”の部分にアンダーラインを引いて下さい。今日は掘り下げませんが、“彼ら”とは誰か。これは真のクリスチャンのことではなく、国家と教会の結合によって墮落し汚れた者たちのこと。権力を得るためにキリスト教を政治的に利用し、異教の習慣と混合させた。その彼らと口の剣をもって戦われます。

「耳のある者は御霊が諸教会に言われることを聞きなさい。わたしは勝利を得る者に」
(黙示録 2:17)

勝利を得る者に三つのものが与えられます。黙示録を学ぶ人たちはよく聞いて下さい。ペルガモの人々が惹かれていたのは、政治的権力ともう一つ、バビロンの偽宗教。つまり、聖職階級制度、様々な隠された神秘。

御言葉を読みましょう。「それらから離れなさい。」

「勝利を得る者に隠れたマナを与える。」(黙示録 2:17)

“隠れたマナ” マナとは勿論、イスラエルの民が荒野をさまよっていた時に、超自然的に天から与えられたパンのこと。

「もしこれらのことを悔い改め、それらから離れるなら、あなたがたは隠れたマナを食べる。」

別の言葉では、

「あなたがたは祝宴を開く。それによってあなたがたの隠れた部分、あなたがたの内側が満たされる。」

次に、隠れたマナだけでなく

「また、彼に白い石を与える。」(黙示録 2:17)

当時は、裁判の場や政治の投票等に石が用いられていました。白い石が YES、黒い石が NO。

「もしあなたがたが悔い改めるなら、わたしは隠れたマナを与えよう。またわたしは白い石を与えよう。」それが意味するのは、無罪、義、自由。

三つ目は

「その石には、それを受ける者のほかはだれも知らない、新しい名が書かれている。」
(黙示録 2:17)

あなたと主以外は誰も知らない秘密の名前。

「もしあなたが神秘を求めているのなら、バビロンの秘密の習慣ではなく、このわたしを見なさい！」

「そうすればわたしはあなたに隠れたマナと白い石、そしてわたしとあなた以外は誰も知らない秘密の名前を与えよう。」

皆さん、今日学んだ事は、とてつもなく深い事です。

ペルガモ思考に注意しなさい。

私たちには政治を変えたいという誘惑があります。政治に私たちの意見を通したい。私たちの思いを形にしてくれる候補者を立てたい。

これが危険なことなのです。

なぜなら、教会が政治と結合した時、夫婦関係になった時、奇妙な事が起こるからです。

歴史が語っているように、それは異常な結婚で要注意なのです。

勿論、善良な市民であることは大切です。しかし、もし皆さんや私がイエス・キリストの御名によって政治活動を行うなら、歴史と同じ過ちを犯すことになる。

だから気をつけて！

主は言っています。

「いつも神の王国にフォーカスして、イエスに情熱を持ち続けなさい。

他のものと妥協させようとするバラムの教えに気をつけて、常に真理の御言葉を保ち続けなさい。」

そうすれば、神が祝福して下さる。

隠れたマナで私たちの内側に永遠の満たしを、白い石で救いの確証を、新しい名前ですべての真実の愛を与え祝福して下さるのです。

これらの教会史の学びを主が祝福して下さるように。

あと四つの教会の教会史も興味がそそられます。

つづく

結局のところ、もうすべてが聞かされていることだ。神を恐れよ。神の命令を守れ。

これが人間にとってすべてである。

神は、善であれ悪であれ、すべての隠れたことについて、すべてのわざをさばかれるからだ。(伝道者の書 12:13 - 14)